

(様式2)

平成 27 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1592400103		
法人名	株式会社 ユーワ		
事業所名	グループホーム やまびこ (あおぞらユニット)		
所在地	新潟県南魚沼市石打311番地1		
自己評価作成日	平成27年7月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成27年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○敷地内には、畑があり季節の野菜をご利用者さまと一緒に植え付けから、手入れ、収穫作業を行っています。○食事作り、洗濯、掃除等、職員利用者の分け隔てなく一緒になって取り組んでいる。
○今年度から身体拘束、虐待防止委員会を設置し、不適切ケアとして特に声かけの部分に焦点をあて、取り組んでいる。
○職員外部研修の機会を作り(年間計画)、認知症に対するケアの資質の向上と、チームとしての個々の役割等勉強してもらっている、職員のモチベーションの向上が職員の定着にもつながり、ご利用者様にとってなじみの職員ができています。
○各種会議では、何でも意見を言える雰囲気作りと、皆で決める姿勢を大切にして、個々の職員の意見を取り入れ、皆が気持ちよく楽しく働ける職場環境作りに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように平成22年に開設し、今年で5年目を迎えた。事業所の夏祭りや地域の美化活動への参加を通じて地域住民との交流を図るほか、避難訓練に地元消防団員にも参加してもらうなど、地域の方に事業所やそこで生活している利用者を知っていただくことで、地域の一員として共に支え合う関係づくりに努めている。
玄関前の畑でジャガイモ・カボチャ・ネギなどの野菜を育て、収穫した野菜を日々の料理に取り入れる。献立は各ユニットで異なり、時には職員が利用者から野菜の切り方や味付けを教わりながら一緒に調理を行うなど、利用者の特技や趣味を生かしつつ、楽しみながら過ごせるよう工夫して支援を行っている。
管理者は、職員の意見を大事して運営を行いたいと考え、話しやすい雰囲気を作ることでモチベーションアップを図り、職員の定着につながるよう努めている。職員の意見やアイデアを盛り込んで事業所独自の「介護記録シート」を作成し、毎日の利用者の様子や健康状態の把握、介護計画書に基づいたサービス提供状態の確認などを記録している。また、利用者への声かけや日々のケアについて職員間で振り返りや話し合いを行い、虐待や不適切ケアの防止にも力を入れて取り組んでいる。
開設以来、積み重ねてきた利用者との関係や取り組みを基に、利用者が安心して暮らせる地域の事業所として、更なるサービスの向上に努めていきたいと考えている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から理念は変わっていない。 新人職員へは現場に入る前に内部研修にて説明を行っている。 施設内各所に理念を掲示している。	理念を事業所内に掲示し、日頃から利用者を中心とした支援に取り組むように努めている。だが、理念について職員間で話し合う機会が持たれておらず、理念について職員の理解や日々の実践への意識付けが十分に図られていない面がある。	事業所サービスの基となる理念について、職員の意識付けを図るための話し合いの機会をもつことが望まれる。さらに、利用者・家族等・地域住民等へも事業所パンフレット等へ記載するなど理解を得るための取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	なかなか実践できていない。 施設の行事(夏祭り)には地域の方へ案内文を出しお招きしたが地域のご家族様には来て頂けるが、その他地域の方の参加がないのが現状。	地域の方に事業所の行事に来てもらったり、地域の美化活動に利用者と職員が参加している。今後は畑仕事を一緒に行ったりお話ボランティアに来てもらうなど、地域住民と日常的な関わりの機会を積極的に持ちたい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去に運営推進会議の中で地域の方に認知症の勉強会を開催したが、その後は特に行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月(年6回)運営推進会議を行っている。 取り組み状況について報告し話し合いを行っている。出た意見について実践できるものは行っている。	運営推進会議は、利用者・家族・地元区長・民生委員・老人クラブ会長・市役所担当者を構成メンバーとして年6回開催し、事業所の取り組みについて報告・相談して意見交換を行っている。年2回の避難訓練には地元消防団員の参加も得て事業所の様子を見てもらっており、それについて有益な意見交換が行われている。	地域包括支援センターや地域の婦人会関係者など、多様なメンバーの参加を得ることで、関係者の持つネットワークを活用した地域情報の把握や、また事業所の情報を広く発信することも可能となるのではないだろうか。サービスの向上につながる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事は、何でも聞いてアドバイス等頂いている。	運営推進会議に市の担当者からも参加してもらい、日頃から相談が行える関係を築いており、市のサービス事業者連絡会議へも参加している。今後は地域包括支援センターにも運営推進会議に参加してもらい、更に連携を深めていきたい意向である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の対象となる具体的な行為を正しく理解しているかは、把握できていない。管理者指導の元、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者・職員は身体拘束は行わないことを前提として、日々のケアに取り組んでいる。玄関には人の出入りに反応するチャイムを取り付けているが、6時から20時までは自由に出入りが行えており、利用者が抑圧感のない自由な暮らしができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員は管理者研修にて、虐待の防止について学んだがその他の職員は機会を設けていない。事業所内において、特に活動していない。	平成27年度より、虐待防止委員会を設置し、虐待や不適切ケアの防止に取り組んでいる。虐待や不適切ケアに関する職員アンケートを実施して、それを基に職員間で話し合い、日々の声かけやケアの振り返りを行って、虐待や不適切ケアの理解・防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は管理者研修にて学んだが、それ以外は特に行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約については十分に説明を行っている。(ご家族様のみ)改定等の案内については書面にて説明し同意が必要なものは頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族様からの要望をお聞きし要望について改善を行っている。施設の玄関には意見箱を設置しご家族様からの意見等表せるようにしている。	利用者との関わりの中で出された意見や要望に耳を傾けるよう心掛けている。運営推進会議でも意見や要望をうかがい、都度、職員間で話し合い改善を図っているが、家族からは意見や要望をうかがう機会が限られている。	面会時や、毎月の広報紙や介護計画書を送る際などに家族へ意見や要望を伝えてもらえるよう働きかけてはどうか。また、意見・要望・苦情への対応手順や開示方法など具体的な仕組みづくりを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	27年度4月の全体会議では、全職員から意見や要望を集約し改善できるところは改善した。	管理者は職員との話し合いを大切にしたいと考え、毎月の全体会議は全員参加を基本としている。新たな介護記録シート様式の作成や浴室のすべり止めマットの導入等、職員からの意見やアイデアで実行できることは直ぐに取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修年間計画表を作成し、今現在予定通り進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に行っていないが、地域のグループホーム連絡会には参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の情報を元に、過ごされてからの様子を日々のミーティングで話し合い、安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望についても、全職員で共有し信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの相談等の時には、丁寧に話し合い。情報や困り事を共有してグループホームがその方に適しているのか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の有する能力に応じ、掃除や食事作り等役割分担し職員と利用者一緒に共同作業行っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化や、要望等あればご家族様へ報告し協力を得ている。	家族へは行事の案内のほか、受診時の付添をお願いしたり、外出・面会の機会などを通して関係が疎遠にならないよう働きかけている。毎月発行の「やまびこ通信」を通じて行事の様子や事業所の活動内容を紹介するなど、家族と事業所が協力して本人を支える関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に、積極的には行っていないが、本人から、話があればご家族様の協力を得て実現する様に努めている。	馴染みの人との関係やいきつけの場所に関する情報は主に利用者から話を聴き、希望があれば都度対応している。家族や知人が面会に来た際には、お茶やお菓子でもてなし、ゆっくり過ごせるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場である事から、できるできない部分を見極めて役割を持って頂いたり、特に力を入れて取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等要望があれば行うが、今までは要望がなく特に行っていない。退去時には、今後も何かあれば相談援助できる事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年度、6月からモニタリングを定期(3ヶ月に一回)に開催し、本人様も含め検討している	日々の関わりの中から思いを汲み取るよう心掛けており、職員会議で作成した詳細な介護記録シートに毎日記録することで一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。新たに得た情報は申し送り時に職員間で話し合い、できることは時間を置かずに対応している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、フェイスシートを作成し過去の経歴やその人らしさの把握に努めている。	以前利用していたサービス事業所や利用者・家族等から教えてもらった入居時の情報を基に個々のフェイスシートを作成し、その人らしさをより理解する手掛かりとして情報の共有に努めている。また、日々の利用者との会話や関わりの中で得た情報は申し送り等で話し合い、職員間で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各御利用者様に担当を付けて、毎月のユニット会議で状況を報告し、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今年度、6月からモニタリングを定期(3ヶ月に一回)に開催し、本人様も含め担当職員と計画作成担当者と計画を作成している。	担当職員から利用者の日々の様子や状態を聞き、介護記録シートを基にモニタリングを行い、計画作成担当者が介護計画を作成している。27年6月からは利用者にもモニタリングに参加してもらっているが、家族やかかりつけ医等の参加は得られていない。	今後、利用者の状態変化や重度化した際の住み替えも考えられる為、介護計画作成にあたっては関係機関の担当者や家族からも参加してもらい、利用者がより良く暮らすための話し合いが行われることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録とは別に、カンファレンスノートで個別での対応の方法や結果について記入している。担当者はモニタリングの事前に課題点を把握し検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に対しては、出来る限り実現できるように解決の姿勢を持ち取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーやホームセンターへの日用品の買出しや花見へ公園へ出かけたり、近くの峠までドライブに行ったりと支援している。今後も、地域資源の活用を増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的受診については、基本ご家族様に行って頂いている。受診時には身体状況等や気になる事があれば書面にまとめたり口頭でお伝えしている。	利用者・家族が希望する今までのかかりつけ医、または事業所の協力医療機関への受診を支援しており、協力医療機関は往診にも対応している。職員は毎日バイタル測定や食事・排泄チェックを行って日々の健康状態の把握に努め、受診時の情報としても活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	フェースシートの提供を行い。不明な点は随時電話で情報提供、相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合やグループホームでは対応困難な状態を説明し承諾を得ている。	医療・看護体制の理由から重度化した場合は他事業所等への住み替えをお願いしており、契約時に家族へ利用ガイドラインを提示して口頭で説明しているが、書面での同意は得ていない。また、職員や平成25年以前に入居した利用者・家族への説明は十分ではない。	文書化した利用ガイドラインを、利用者・家族へ手渡して説明し、書面で同意を得ると共に、状態変化に応じて繰り返しの話し合いが求められる。また、地域の関係機関とも連携を図り、利用者が安心して暮らしを継続できるよう取り組むことを期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない。	緊急時における連絡手順を作成し、各ユニットに常備している。27年7月にAEDを導入して業者から説明を受けたが、初期対応の訓練や研修を行っていなかった為、9月に緊急時の対応についての研修を予定している。	今後、緊急時対応の訓練は定期的・継続的に行い職員の実践力を維持向上させることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度、6月に地域の消防団も参加して夜間の火災を想定した避難訓練を実施した。	年2回の避難訓練には地元消防団員や運営推進会議の委員にも参加してもらうなどして、地域の方に事業所や利用者の様子を知ってもらったり、地域との協力体制を築ける機会が持てるよう取り組んでいる。また、近隣の法人施設を緊急時の避難先としており、法人内でも連携を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なかなか全職員に徹底出来ていないのが現状だが、不適切なケア、精神的な虐待と捉えて委員会を通じて勉強会を開催している。	排泄や入浴時の声かけや対応をはじめ、適切な声かけや対応及び職員としての態度などについて、職員間で都度の振り返りや話し合いを行い、利用者の尊厳を意識したケアに取り組んでいる。居室の戸は閉めておく、汚れ物はさり気なく片付けるなど、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけの方法として、相手が選択できるような声かけも指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの動きや要望等、出来るかぎり聞き入れる様に支援している。困難な希望であっても管理者含め対応できるように検討対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的受診や、外出されるときにはいつもと違うおしゃれな洋服を着て頂いたり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の切り刻みや、盛り付けや食器洗い等一緒に行っている。山菜の時期にはメニューを変更したり旬な食材を取り入れている。	調理や味見、食器洗い等、出来る範囲で利用者も職員と一緒に食事作りに取り組んでいる。各ユニットで献立を作成し、利用者の嗜好や状態に合わせて粥やミキサー食に変更したり、畑で採れた野菜を使うなど、工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は記録していないが、摂取量は毎食記録し把握している。なかなか水分を飲まれない方を把握し、好きな飲み物や夜間も含めこまめに水分を促す等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施している。余計な手出しをしないように出来る部分を把握しその人にあったケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	今現在、おむつを使用している方はいない。排泄援助については、ユニット会議や日々のミーティングの中で話し合い、できる部分に焦点をあて自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、個別ケアに取り組むと共に、利用者の気持ちに配慮した声かけや対応を行っている。夜間頻回にトイレへ行く利用者には都度対応し、申し送り時に様子を伝え、気持ちよく排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	掃除や食器洗い等日常生活の中で運動をして頂き適度な運動をとっている。今年度予定している食事に関する勉強会の中で飲食物の工夫を勉強していく予定。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外を入浴日として一日3名程度曜日を決めて入浴してもらっているが、突発的な希望があれば聞き入れ臨機応変に対応している。	個別入浴及び同性介助を基本として週2回入浴できるよう支援しており、希望があれば臨機応変に対応していく意向である。入浴を嫌がる方には、気分転換を図って再度誘うなど、気持ち良く入浴ができるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態を観察し、必要があれば休息を取ってもらっている。快適な睡眠の環境になるように温度や掛け布団の調整、適切な明るさ、音等に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書は、ファイルに綴じ管理している。経験のある職員はある程度薬について理解しているが、新人職員や経験のない職員についてはほとんど理解していない状況。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般、本人様がすすんで取り組んでくれるものや、スムーズに出来る事を把握してある程度役割分担し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	突発的な外出希望があれば、その日の職員で相談し、業務を組み替えて出来る限り希望に沿うように対応している。	お花見などの年間の外出行事のほか、市内のスーパーへ買い物に出かけたり、その日の天候を見てドライブに出かけるなど、臨機応変に対応している。また、天気の良い日は玄関前の畑や事業所周辺への散歩に誘うなど、出かける機会を持つように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お一人の方については、お金を所持しているが、その他の方については、事務所で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあれば、行っている。また、宅配物等が届いた時など、お礼の電話をかねて本人様に話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設っぽくならず、家庭的な雰囲気になるようにしている。	玄関を入ったスペースにはソファを置き、利用者が外出から戻った際にひと休みしたり、カラオケや共同作業を行う交流の場として活用している。各ユニットの共用スペースには、利用者やボランティアの作品を飾り、暖かみのある空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に一人になれるような空間はないが、玄関前のホールにはソファを置きユニットとは違う雰囲気で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具等持ってきて頂く様にご家族様へは説明し、持ってきて頂いている。	利用者・家族には、居室に収まる範囲で自宅で使っていた物など私物の持ち込みをお願いしている。アルバムや本、御位牌など傍に置き、利用者が安心して過ごせる居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な安全環境づくりにならない様、できる部分に重点を置き環境作りをしている。		